

令和8年度 第2回 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和8年9月3日（木） 午前9時30分から11時30分まで

2 場所 静岡南部特別支援学校 1階 会議室

3 出席者

(1)学校運営協議会会員

地域コーディネーター、西豊田地区社会福祉協議会、NPO 法人ひまわり 副理事長、
小鹿こども園 園長、静岡済生会療育センター令和 療育支援課主幹、
西豊田小学校 PTA 顧問、本校 PTA 副会長

(2)本校職員

校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事・訪問主任、教務主任、カーニバル担当

4 内容

- ・校長挨拶
- ・令和8年度「感謝と希望」に関する取り組みの紹介
ハレ☆ばれカーニバルについて
- ・協議 グループ協議
全体共有
- ・まとめ、閉会

5 議事録

【校長より】

- ・広島で開催された全国肢体不自由特別支援学校 PTA・校長会研究大会の報告。医療的ケアラインの村尾晴美氏の講演における、「お母さんは人形を育てているの？」と特別支援学校の担任に言われたというエピソードを紹介した。村尾氏は、怒りよりも「自分も息子と話したい、コミュニケーションを取りたい」という羨ましが先に立ったと語っていた。このエピソードを通じ、特別支援学校の教員はただ授業をするだけでなく、「親子の絆を深める仲介者」としての重要な専門性ややりがいを持っているのだと再認識した。
- ・70 年以上前からの先人たちが声を上げたことで「学ぶ権利」や「通学支援」が実現されてきた。社会を動かした当事者の子どもたちは、完成した新制度を一つも使えなかった。まだ胸を張って「共生社会」と言える時代には至っておらず、今の私たち自身も環境や制度に対して行動を起こし、声を上げ続けていく必要がある。
- ・少子化の進行や医療の発展、さらに訪問看護、デイサービス、レスパイトケアなどの制度が充実したことにより、病院や施設に入所する児童生徒が減少してきたという時代の変化が背景にある。そうした時代の流れに寄り添いつつも、子どもたちの集団での豊かな学びを確保するために、本校は閉校となり、児童生徒は中央特別支援学校への転校となる。閉校までの残り約 7 ヶ月において、「先人たちの熱い思いによってこの学校が作られ、地域に根ざして

きた歴史への感謝」を胸に刻み、「子どもたちの将来への希望」を掲げられるよう、全力を尽くしたい。

【グループ協議、全体共有】

○令和8年度「感謝と希望」に関する取り組みについて

- ・テレビ、ラジオ（NHK など）、新聞等の公共メディアへの積極的な情報提供。
- ・学校の窓や周辺から見える位置に「閉校アピール」の横断幕を張り、通行人に周知するのはどうか。
- ・残り半年でも「静岡南部特別支援学校公式 Instagram」の新規立ち上げと発信は必要なのではないか。
- ・地元の回覧板を用いた、閉校メッセージの募集と地域周知。
- ・今もリハビリ等に通う卒業生に声を掛けて、縦の繋がり・声かけネットワークを広げる。
- ・新しい学校（中央特支等）への移行にあたり、「友達が増えるのが楽しみ」と前向きな生徒であっても、具体化するにつれ葛藤や不安が生じることがあると思う。表面的に楽しみにしている様子だけに安心せず、移行期特有の「揺れる気持ち」を教員・保護者双方が丁寧に聞き取り、フォローする体制を整えてほしい。

○なんぶっこハレ☆ばれカーニバルについて

- ・最後の共同開催となるため広く声をかけており、遠方からの問い合わせも届いている。一方でまだ知らない人もいるため、後から「知らなかった」とならないよう SNS での周知を徹底する。
- ・地域の中学校の吹奏楽部やベリーダンス等、児童生徒だけでなく、成人の利用者も楽しめるようなステージ、キッチンカーなどを用意。児童・生徒が買い物しやすいスケジュール構成や場内放送での案内を考慮したい。
- ・保護者連絡アプリ「tetoru」を活用した、開催3週間前～1週間前の適切なタイミングでの配信依頼。
- ・ひまわりの利用者が働く済生会病院駐車場なので、料金支払時にチラシを配布するのはどうか。
- ・移動支援（ヘルパー等）の手配が間に合うよう、チラシや開催情報は早めに周知してほしい。
- ・他校の成功事例を参考に「卒業生の部屋」を設置し、リラックスして昔話ができ、在校生とも触れ合える滞在スペースを提供するのはどうか。
- ・会場に来られない遠方卒業生を繋ぐ「Zoom 同窓会（オンライン中継）」を企画してはどうか。
- ・車椅子から降りて畳やクッション等でリラックスして身体を休められる「休憩スペース」を会場内にあるとよい。

